エクストリームチャレンジ in 四国の右下2012　オープンクラス

オープンクラス優勝チームコメント

野猿〜nozaru〜1号　此上　宗孝 さん

こんにちはTEAM野猿〜nozaru〜キャプテンの此上（このうえ）です。皆からは、むーと呼ばれています。この度オープンクラスで念願の初優勝を飾ることが出来ました。

野猿の四国エクストリームへの思い入れは強く、過去5回開催されている内、今年を合わせて4回参加しているのに加え、この大会は、年に一度、関東の猛者が四国に集う、唯一のアドベンチャーレースだからです。

野猿会長の高見が、この次期になると、酔っ払って唾をペッペと飛ばしながら、口癖のようにこう言うんです。『“四国に野猿あり”じゃ！！おい、むー！！四国エクストで、関東の猛者達に野猿の存在を知らしめてやろうで！！』と…（酔っ払った高見は、野猿の間では妖怪唾飛ばしと呼ばれています。）

今回の優勝で、少しは“野猿（のざる）”のこと覚えて頂ければこれ幸いかな、と思います。

今回のコースを振り返ってみて、印象に残っているのが、CP10の自転車担ぎ上げと、CP17の藪こぎと、CP17取ってからの崖下りです。

まずCP11までの担ぎ上げ。メンバー3名それぞれ家庭があり、時間とお金の制約を受けながら、チーム練習がろくに出来ないまま当日を迎えたため、担ぎ上げをするのが本当に久しぶり。こんなにMTB重かったっけ…体が（特にふくらはぎが…）悲鳴を上げていました。CP11でのチームチャレンジ応急担架は、職業柄迅速に対応できたんですが、担架に乗せられた会長高見は要救助者そのものでした。

次にCP17の藪こぎです。僕ら（特に此上）は“尾根づたいにCP17を目指すとなんか迷ってしまう病"にかかってしまい、キャプテンの独断でピークのCP16から真北に延びる尾根筋に入りCP17の高度付近でトラバースすることに決めました。背丈程もあるシダの森の中を、体を盾にどんどん進み、何度も不安と戦いながら進みました。戻ろうか…と言えば、優勝はないなと思っていました。とにかくコンパスと、CP16で合わせた高度計頼み。やっ〜とのおもいでCP17を見つけた時は、大声で叫びたい気持ちを抑えるのが必死でした。

そこからは、優勝の二文字が頭をよぎっていたことと、後続のチームの声が聞こえていたこともあり、冷静な判断ができず、直で下ってしまい等高線がかなり積んでいるポイントにさしかかってしまいました。落差約5m、まさに崖。岩もグラグラ。これは命が危ない…そう思いました。命には代えられないと思い、戻ろうかとも考えましたが、川の音がすぐ近くに聞こえていたのと、後続のプレッシャーに押され、チームは一人ずつ慎重に進むことに。落石の危険と、転落の危険にさらされながら（ちょっと転落しながら）安全管理無視の無謀なチャレンジでした。たぶん同じコースを辿ったチームはいなかったのでは??…次回以降は緊急脱出用ロープとテープスリング（簡易ハーネス用）エスケープエイトを携行することを誓いました。

今回の優勝はコースを作っていただいたスタッフの方と、いつも迷ったり足を挫いたりして上位を逃す野猿の呼吸が、たまたま合っただけなのか、はたまた野猿が少しずつ成長して、力がついてきているのか定かではありませんが、野猿のええように解釈させていただいて来年も優勝目指して頑張ります！！

スタッフの皆さん、楽しい時間をどうもありがとうございました！！次回ウィンターチャレンジ参戦計画中…
またよろしくお願いします！！